

有馬富士公園に造形作家・新宮さん作品

風や水で動く芸術作品で知られる三田市藍本の造形作家、新宮晋さん(76)が制作した「里山風車」が、県立有馬富士公園(同市尼寺)に設置される。新宮さんが県に寄贈し、10日に除幕式がある。

発電可能 10日お披露目

作品は幅約6.5の六角形の小屋の上に、船の帆などに使われる厚手の布を張った風車がつく。風が吹くと発電する仕組み。風車を含めた高さは約7.5になる。

新宮さんは、風力や太陽光などの自然エネルギーだけで自活するプロジェクト「ブリージング・アース(呼吸する大地)」に取り組む。作品はその一環でつくり、2009年11月から約3カ月間、芦屋市の潮芦屋浜で試験を重ねて完成させた。その後、美術館などで展示された。

県阪神北県民局は、管内に残る里山を「北摂里山博物館」として整え、地域の活性化にいかす構想を進める。今後、寄贈された風車を使い、様々なイベントを企画していくという。

除幕式は10日午前10時から、公園の休養ゾーン芝生広場である。幼稚園児らが思い思いに描いた、こいのぼり約40本も飾

新宮さんは「アート作品だが同時に自然のエネルギーを感じさせるものでもある。里山のシンボルにいいと思いい寄贈した」と話している。(伊藤武)

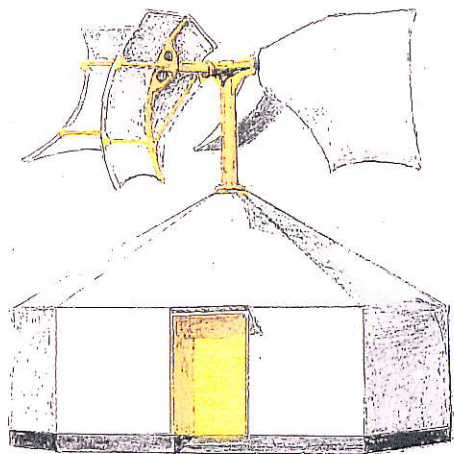


設置作業が進む「里山風車」＝三田市尼寺の県立有馬富士公園

集い、守る里山の象徴

三田の造形作家 新宮さん 風車型の新作設置へ

三田市藍本にアトリエを構える世界的造形作家、新宮晋さん(76)の新作モニュメント「里山風車」が、有馬富士公園芝生広場(三田市尼寺)に設置される。兵庫県阪神北県民局が進める「北摂里山・風のミュージアム」のシンボルで、11月10日に除幕式がある。
(溝田幸弘)



新宮晋さんが描いた「里山風車」のイメージ図

里山風車は高さ約6・9坪。六角形の小屋の上に、セールクロス(帆布)の羽根の風車を備える。風車には発電機能があり、夜間は小屋に取り付けた照明が風車を照らし出す。小屋には人が入ることができ、催しなどに開放するという。

同県民局は、三田、宝塚、川西、伊丹市と猪名川町に残る里山や自然公園を展示物に見立てた「北摂里山博物館」構想を展開する。

はその一環で、新宮さんら芸術家による実行委員会が7月に設立。子ども向けワークショップなどを計画している。新宮さんは「現代人にとつての里山をみんな考えていきたい」と語る。

11月10日午前10時から風車の除幕式があり、新宮さんが講演する。風車の周辺には、幼稚園児や高校生らが制作した約40本の「元気のぼり」がはためく予定。実行委事務局 ☎ 0797・83・31